



2017. 4. 1

4月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園
神戸 YMCA ちとせ幼稚園

新入園児を迎えて桜が咲き 2017 年度が始まりました。ひとつ進級した、幼稚園にはもう慣れている子どもたちも、桜の香がする風や、まだ薄い緑の葉に透ける春の陽射しに心新たなことでしょう。

新しい年度を迎える前の 3 月、年長の園児が卒園していきました。幼稚園で過した年月の長さに違いはあっても、やさしい心とつよい意志をすこやかな体に備えた、ちとせ幼稚園の立派な卒園児でした。そして新米園長の私にとって初めて保育修了証書を手渡した子どもたちでした。

保育修了式は、本番に先立って 2 度、日を変えてリハーサルを行いました。

1 度目のリハーサルの証書授与は、園児が私の前に立って、私とタイミングを合わせてお辞儀、私が「おめでとう」と言いながら証書を差し出し、園児がお辞儀をしながら受け取るという流れでした。リハーサルの後、私は証書授与の流れを検討し、園児と私が最初にするお辞儀は無くして証書を受け取る際に園児が 1 度だけお辞儀するほうが、全体が滑らかに流れるだろうと考えました。

2 度目のリハーサルでは、言葉で説明するより実際にやる方が良いと思って、流れを変えたことを園児たちには言わず、園児が前に立ったら目を見て呼吸を合わせ、「おめでとう」と言いながら証書を差し出して授与していききました。

20 人くらいに授与し終えた頃、教諭がそっとやってきて「〇〇君が、園長先生がお辞儀を忘れている、と教えてくれました」と耳打ちしてくれましたが、「最初のお辞儀は省略します」と小声で応え、そのままリハーサルを続行しました。

その後も、証書を差し出しても、手を出す前に「先生、お辞儀忘れてる」と、私にだけ聞こえる小さな声で教えてくれる園児が何人も出てきました。「最初のお辞儀はしないことにしたんだ」と小声で伝えると、どの子どもにっこり笑って「ありがとうございます」と証書を受け取ってくれて、リハーサルは滞りなく終了したのでした。

園児たちは「園長先生が間違えた」と思い、間違えた私を思いやって、ある子はそっと別の先生に伝え、ある子は証書を受け取る前にそっと教えてくれたのでした。気づいたけれど素知らぬ顔で受け取ってくれた子もいたに違いない、私はそう思いました。

リハーサルとはいえ緊張する状況の中、私を思いやってくれた子どもたちに感謝しながら、本当に嬉しくなりました。

今年度も、子どもたちひとりひとりが神様にまもられて、やさしく、つよく、すこやかに育ちますように、教諭たちと力を尽くしたいと思います。

年主題 『愛されて育つ』

<年主題聖句> 「あなたがたは神に愛されている子供です」
(エフェソの信徒への手紙 5 章 1 節)

4 月主題 『出会う』

<聖句> 「あなたがたに平和があるように」
(ヨハネによる福音書 20 章 19 節)